

新生児仮死後の低体温療法の登録事業開始のお知らせ

厚生労働省「周産期母子医療センターネットワーク:重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究班(研究代表者:藤村正哲)」の「Consensus2010に基づく新しい日本版新生児蘇生法ガイドラインの確立・普及とその効果の評価に関する研究班(分担研究者田村正徳)」では、WEBを活用した新生児仮死後のHIEに対する低体温療法の登録事業を2012年1月1日から開始しました。(<http://www.babycooling.jp/>)

新生児低体温療法登録の対象の選定基準は、中等度～重症低酸素性虚血性脳症(HIE)と診断された新生児の中で、低体温療法の導入が考慮された症例全てです。低体温療法実施症例は、NCPRガイドライン2010の適応基準やプロトコルを遵守したか否かを問いません。むしろNCPRガイドライン2010の適応基準以外の症例も積極的に登録していただくことで予後の分析結果から日本独自の適応基準の作成にもつながるかもしれません。

また、NCPRガイドライン2010の適応基準に合致したが、種々の事情により結果的に冷却しなかった症例も登録していただくことによって、低体温療法実施にあたっての障害の解消策の提言にも役立たせたいと考えています。

登録内容は、出生時の情報・母体情報、脳症の評価・aEEGによる脳症の評価、冷却開始後の情報・退院時の情報・頭部MRI所見、等です。これらの臨床情報を蓄積し、最終的な長期予後と組み合わせて解析することで、予後因子をスクリーニングしたいと考えています。その結果として適応基準や冷却方法・併用療法の改善により、脳保護効果を更に増強するプロトコルを開発し世界に発信したいと考えていますので、皆様方の施設でも是非ご協力下さいますようお願い申し上げます。

登録事業にご参加いただいた施設には、低体温療法実施にあたっての教材などを送付させていただきます。新規登録を希望される方は info@babycooling.jp までご連絡下さるようお願い申し上げます。

2012年1月1日

「周産期母子医療センターネットワーク:重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究班」

研究代表者:藤村正哲

「Consensus2010に基づく新しい日本版新生児蘇生法ガイドラインの確立・普及とその効果の評価に関する研究班」

分担研究者 田村正徳